



第56回建築士会全国大会「しまね大会」のご案内

神集う国 しまね すべてを引き寄せ 縁結ぶ 「ものづくり」の原点を見つめる

島根は記紀神話の中にも重要な位置を占める出雲の国を擁し、古来には大和朝廷に対する一つの国が成立した地であります。今も太しく高くそびえ立つ出雲大社のもとに、縁結びの合議を行うがために各地方の神々が集まります。この地には人々が共に相集い、相まみえ、言葉を交わし、縁を通じる気が流れています。そして同時に、古くから培われてきた伝統と文化の重みを感じる地でもあります。

サブテーマとして「ものづくり」の原点を見つめる、としたのは、われわれ建築士の役割と、社会的な存在意義を見つめ直すことが必要と感じるからです。建築士の社会における責任が高まっていることはご承知の通りです。それに伴い、高度な技術、高潔な倫理観が要求される場所です。そして、人々の生活を支える建築をつくり、まちをつくり、かつ災害からも守らなければなりません。しかし、ものをつくる匠でもある建築士が原点を見据えたものづくりをしているのか。現代の技術は古くからの建築技術や文化を根こそぎ奪ってしまうものではないはずですが、顧みられなくなっています。東日本大震災でまちが消えるような被害を受けた人々の心に、古くからの文化に彩られたまちなみや、建物、そして暮らしの痕跡が、いかに大事なものであったかが刻まれています。それらをつくり、守っていくのも、匠であるわれわれの役割のはずです。

今大会では特に木造建築を島根のテーマの媒体として取り上げました。古い伝統や技術によって形づくられたものは、人々の住む町に永く根づき、記憶の中にまで沁み込んでいます。しかし、そんな技術や伝統的な文化も、廃れていってしまう状況に陥っています。それらを見つめ直し、同時にこれからの木造建築についても思いをはせることが、われわれ建築士の役割の一つではないかと思えます。

講演では、自動車のデザインを通じて、ものづくりについての原点となる話をさせていただき、島根会のセッションでは木造フォーラムを開きます。さらに、松江のまちを伝統・文化からの視点に照らし、若い高校生の感性を絡ませたの見学ツアーを開催します。また、建築士会全国大会の本来の意義と価値を考えるために、全国会員の交流が欠かせないと考え、情報の提供、意見の交換、士会の役割や建築士のなすべきことを考える場を設けます。

大会終了後のオプションツアーにも、離島隠岐の島や、島根の金属文化を辿る銀山、西部益田や津和野を巡る企画など多数用意しています。これらにもぜひご参加ください。

都市化から切り取られた地であることによって、日本の文化や暮らしが守られてきた地です。日本の文化の原点にあった建築文化について語り合うには最適の地ではないかと思っています。たくさんの方にお越しいただき、お会いできることを楽しみにしています。



足立 正智

Masanori Adachi

第56回建築士会全国大会
「しまね大会」

一般社団法人島根県建築士会 会長